

令和2年度実施
(2020年度実施)

雇用主アンケート調査報告書

令和3年(2021年)5月
別府大学短期大学部 就職委員会

はじめに

卒業生・雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として実施しています。

平成 29 年度からは、それまで 3 年毎であった調査を毎年実施し、FD 委員会が卒業生・雇用主アンケートを一冊の調査報告書にまとめて次年度の教育内容の改善に役立ててまいりましたが、今年度より調査報告書については、卒業生・雇用主アンケートを分離し、FD 委員会が卒業生アンケート、就職委員会が雇用主アンケートとそれぞれの報告書を作成することになりました。

また、今回の調査から雇用主アンケートについては、令和元年度短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、雇用先から多くの貴重なご意見をいただくことができました。

お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した雇用主アンケート調査報告書が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っています。

令和 3 年(2021 年) 5 月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

令和2年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	4
雇用主アンケート調査結果	
（1）食物栄養科調査結果.....	6
（2）初等教育科調査結果	11
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領.....	18
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー.....	19
食物栄養科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	21
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	21
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	21
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	22
初等教育科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	23
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	23
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	23
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	24

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

（目的）

第 1 条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

（所轄部署）

第 2 条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD 委員会および就職委員会）と連携して行う。

（調査対象）

第 3 条 調査対象は以下の 2 つとする。

- （1）本学を卒業した過年度の卒業生
- （2）卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

（調査方法）

第 4 条 調査方法は以下の手順で行う。

- （1）キャリア支援課で送付先を抽出する。
- （2）質問項目は、FD 委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- （3）アンケート実施期間は、第 2 四半期から第 4 四半期の一定期間（10 日間程度）を定め、

対象者に送付する。

(4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。

(5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

(1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。

(2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。

(3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

雇用主アンケート調査結果

調査方法	アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計
調査期間	アンケート協力依頼文書発送日(令和2年8月28日)から同年9月25日回答締め切り
調査対象	各科とも令和元年度卒業生の雇用先全数調査 食物栄養科 38施設(社) 回収率 36.8% 初等教育科 128施設(社) 回収率 41.4%

(1) 食物栄養科【送付:38 施設(社)、回収:14 施設(社)、回収率 36.8%】

【Ⅰ はじめに貴施設(社)についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設(社)の所在地及び従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	8	57.1%
大分県臼杵市	1	7.1%
大分県宇佐市	1	7.1%
大分県由布市	1	7.1%
県外	3	21.4%
合計	14	100.0%

就職先は、大分市の施設が 57.1%で半数以上である一方で、県外企業が 21.4%と以外に多い。

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	7	50.0%
50～99	1	7.1%
100～199	1	7.1%
200～	5	35.7%
合計	14	100.0%

従業員数は、保育園や小売業では少ないが、全国展開する企業や大規模施設では多くなっている。

3) 業種

業種	回答数	割合
保育園	3	21.4%
認定こども園	2	14.3%
医療・福祉	3	21.4%
給食委託	3	21.4%
小売業	2	14.3%
その他	1	7.1%
合計	14	100.0%

業種では、従来の医療・福祉や給食委託業者だけでなく、初等教育科の学生が多く就職する保育園・認定こども園での就職が 35.7%を占めている。

問2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業(業種)	回答数	割合
保育教諭	1	5.9%
栄養士(調理員含む)	11	64.7%
栄養教諭	1	5.9%
事務(受付、窓口業務、経理等)	2	11.8%
検査員	1	5.9%
その他	1	5.9%

※卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択

栄養士・栄養教諭としての就職が7割を超える一方で、1割を超える者が事務等、一般企業での就職している。

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。

施設(社) NO.	食物栄養科 卒	施設(社) NO.	食物栄養科 卒
1	1人	8	1人
2	2人	9	1人
3	2人	10	1人
4	2人	11	1人
5	2人	12	1人
6	1人	13	2人
7	10人	14	1人

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月
1	女		

規模の大きな事業所では、就職者・離職者の出身校等について、把握することが困難になることが考えられる。

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・仕事に意欲的であること
- ・明るい性格（人柄・人間性）
- ・対人関係がうまくできる
- ・コミュニケーション能力、協調性
- ・一般常識（ビジネススキル）、教養
- ・意欲
- ・誠実に、かつ迅速に仕事に取り組むことができるか
- ・素直に実務の実行ができる。

回答は仕事に求められる専門知識・技術でなく、コミュニケーション能力に代表される対人スキルや一般常識・教養等が挙げられ、雇用主は、周囲と協調できる人間性や就業意欲を重視していることがうかがえる。

【Ⅱ 2019 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

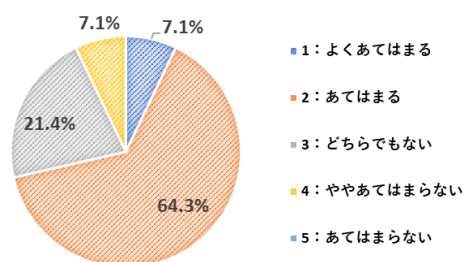
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.1%
2：あてはまる	9	64.3%
3：どちらでもない	3	21.4%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	0	0.0%

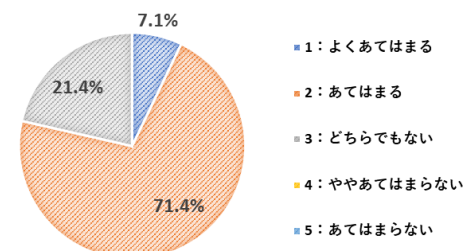


基礎的な教養の修得については、1 よくあてはまると 2 あてはまるが 7 割を超えている。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

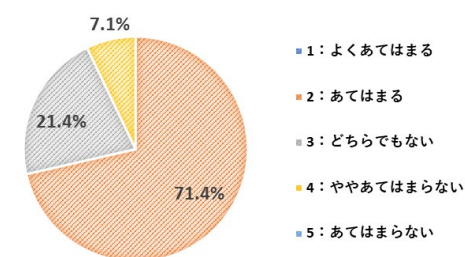
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.1%
2：あてはまる	10	71.4%
3：どちらでもない	3	21.4%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



専門職としての知識・技能の修得については、8 割近くが 1 よくあてはまると 2 あてはまると回答している。

問 7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができる。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	10	71.4%
3：どちらでもない	3	21.4%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



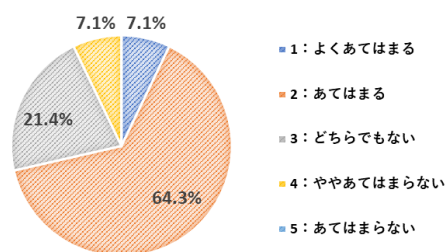
約 7 割が 2 あてはまるとしている一方で、3 割が 3 どちらでもないと 4 ややあてはまらなると回答している。

答している。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問 8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

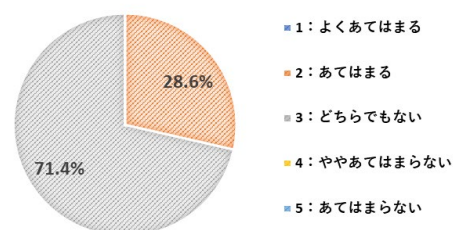
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.1%
2：あてはまる	9	64.3%
3：どちらでもない	3	21.4%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 7 の「判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている」とほぼ同様の回答になっている。

問 9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	4	28.6%
3：どちらでもない	10	71.4%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



2 あてはまると回答が約 3 割あるが、7 割はどちらでもないと回答している。

問 10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・ 良い学生さんに出会い感謝しております。専門職なので難しいとは思いますが、沢山の学生さんがこども園、保育園に就職してくれることを願っています。
- ・ 今後も貴学の卒業生をご紹介頂ければと思っております。
- ・ 毎年別府大学短期大学部の卒業生に就職頂いています。当法人で育って頂くために、新卒の方の採用に注力しています。
- ・ 職当初は人間関係に悩んでいたようですが、今は慣れてきて頑張っています。
- ・ 貴校卒業生様には明るく前向きに取り組んでいただいております、ご活躍いただいております。今後とも良いご縁を結んでゆければ幸いです。
- ・ ご自身のペースで頑張っていってほしいです。

就職者や本学についての具体的な要望は見当たらず、本学からの就職者を歓迎し、温かく見守り育てている様子がうかがえる。

(2) 初等教育科

【送付:128 施設(社)、回収:53 施設(社)、回収率 41.4%】

【Ⅰ はじめに貴施設(社)についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設(社)の所在地及び従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合
大分県大分市	27	50.9%
大分県別府市	5	9.4%
大分県佐伯市	4	7.5%
大分県杵築市	3	5.7%
大分県臼杵市	3	5.7%
大分県宇佐市	1	1.9%
大分県竹田市	1	1.9%
大分県由布市	1	1.9%
大分県津久見市	1	1.9%
県外	7	13.2%
合計	53	100.0%

学生数だけでなく求人件数の多い大分市の施設が半数を占めており、別府市、佐伯市と続いている。

2) 従業員数・職員数

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	40	75.5%
50～99	5	9.4%
100～199	3	5.7%
200～	5	9.4%
合計	53	100.0%

以下3)の質問にある幼稚園・子ども園、保育所に就職した者が大半であるため、施

設の特性から 50 名未満の小規模な施設が 75.5%を占めている。

3) 業種

業種	回答数	割合
保育園	14	26.4%
幼稚園	6	11.3%
認定こども園	20	37.7%
施設	9	17.0%
その他	1	1.9%
無回答	3	5.7%
合計	53	100.0%

初等教育科で取得した保育士・幼稚園教諭、小学校教諭 2 種免許状の専門資格を活かした就職先が 9 割以上を占めている。

問 2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業(業種)	回答数	割合
保育士	25	38.5%
幼稚園教諭	6	9.2%
保育教諭	23	35.4%
児童指導員	2	3.1%
管理栄養士	1	1.5%
栄養士(調理員含む)	4	6.2%
その他	4	6.2%

※卒業生が複数（食物・初教）いる場合、それぞれを選択

前問 3) と同様、ほとんどの卒業生が専門資格を活かして就職していることがうかがえる。

栄養士とあるのは、食物栄養科と初等教育科両学科の卒業生が就職した施設の回答であることが推察される。

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。

施設 (社)NO.	初等教育科 卒	施設 (社)NO.	初等教育科 卒	施設 (社)NO.	初等教育科 卒	施設 (社)NO.	初等教育科 卒
1	1人	15	5人	29	5人	43	1人
2	1人	16	1人	30	1人	44	4人
3	6人	17	3人	31	2人	45	10人
4	2人	18	8人	32	6人	46	10人
5	9人	19	5人	33	1人	47	8人
6	1人	20	1人	34	4人	48	1人
7	4人	21	5人	35	3人	49	1人
8	2人	22	2人	36	9人	50	4人
9	2人	23	5人	37	1人	51	10人
10	7人	24	5人	38	1人	52	2人
11	4人	25	2人	39	3人	53	3人
12	1人	26	10人	40	5人		
13	1人	27	4人	41	3人		
14	3人	28	1人	42	6人		

(人)

前問2)にあるように、多くの雇用先が保育園・幼稚園・子ども園で、小規模な施設であるにもかかわらず、10名もの在職者がいる施設が4箇所あり、5名以上の施設が19施設にのぼり、本学の卒業生が多く就職していることがうかがえる。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	※勤務期間
1	女	平成17年・4月	平成30年・3月	13年0ヶ月
2	女	平成19年・4月	平成31年・3月	12年0ヶ月
3	女	平成21年・4月	平成30年・3月	9年0ヶ月
4	女	平成25年・4月	平成31年・3月	6年0ヶ月
5	女	平成26年・4月	平成29年・3月	3年0ヶ月
6	女	平成26年・4月	平成29年・3月	3年0ヶ月
7	女	平成29年・7月	平成31年・4月	1年10ヶ月
8	女	平成30年・4月	平成30年・7月	0年4ヶ月
9	女	平成30年・4月	平成31年・3月	1年0ヶ月
10	女	平成31年・4月	平成31年・9月	0年6ヶ月

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

10年を超えて勤務し離職する者がいる一方で、1年に満たない離職者も2名存在する。

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

- ・保育力、人間性、性格
- ・誠実さ
- ・受け答えや返答の仕方や姿勢。
- ・保育士の仕事を目指した理由。
- ・明るい性格

(※ 代表的な意見を抜粋)

食物栄養科の回答と同様に、コミュニケーション能力に代表される対人スキルや一般常識・教養等が挙げられ、雇用主は、周囲と協調できる人間性や就業意欲を重視していることがうかがえる。

【Ⅱ 2019 年に入社した本学卒業生についてお伺いします。】

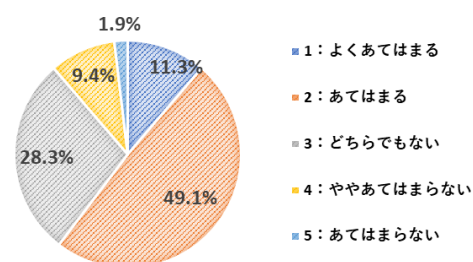
本学卒業生に対する印象について、問 5～問 9 の項目において 5 段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

〔1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない〕

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問 5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	11.3%
2：あてはまる	26	49.1%
3：どちらでもない	15	28.3%
4：ややあてはまらない	5	9.4%
5：あてはまらない	1	1.9%

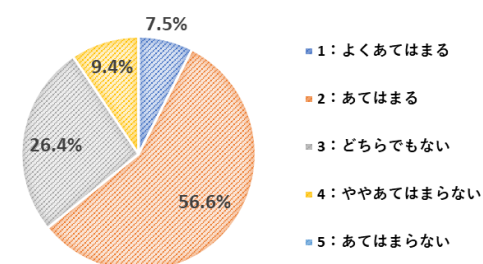


基礎的な教養については、1 よくあてはまる、2 あてはまるという回答が6割であり、食物栄養科と比べると1割程度低くなっている。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問 6 専門に関する知識・技能を修得している。

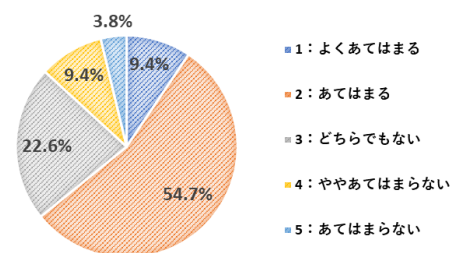
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	7.5%
2：あてはまる	30	56.6%
3：どちらでもない	14	26.4%
4：ややあてはまらない	5	9.4%
5：あてはまらない	0	0.0%



専門に関する知識・技能の修得については、1 よくあてはまる、2 あてはまるという回答が64.1%であり、食物栄養科の78.5%と比べると低く、4 ややあてはまらないと回答した施設が5箇所あった。

問7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができる。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	9.4%
2：あてはまる	29	54.7%
3：どちらでもない	12	22.6%
4：ややあてはまらない	5	9.4%
5：あてはまらない	2	3.8%

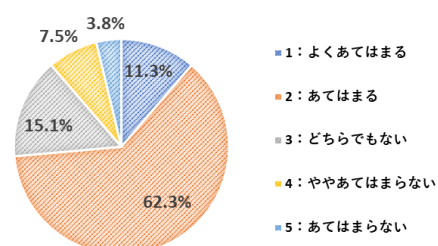


評価の高い1 よくあてはまるが9.4%、2 あてはまる 54.7%である一方で、4・5 あてはまらないとする回答が13.2%あり、卒業生個人の特性も考えられるが評価が分かれている。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

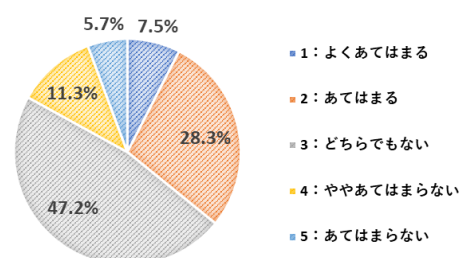
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	11.3%
2：あてはまる	33	62.3%
3：どちらでもない	8	15.1%
4：ややあてはまらない	4	7.5%
5：あてはまらない	2	3.8%



問7と同様に、1 よくあてはまると2 あてはまるを合わせた評価の高い卒業生が7割を超える一方で、評価の低い卒業生が存在する。

問9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	7.5%
2：あてはまる	15	28.3%
3：どちらでもない	25	47.2%
4：ややあてはまらない	6	11.3%
5：あてはまらない	3	5.7%



1 あてはまると2 あてはまるとした回答が35.8%、どちらでもないという回答が約半数になっている。

食物栄養科と同様に、2年間の限られた教育課程においては専門職としての知識・技術の修得が一義的であるため、国際的な動向等に関心を向ける機会が不足していることが推察される。

問10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・幼稚園教諭や保育士を目指している学生に、他の分野にも視野を広げ、キャリアデザインを描いて欲しいです。
- ・自ら学ぼうとする意欲を積極的に言葉や態度に出せたらもっと良い保育教諭に成長すると思います。
- ・地元の保育施設で就職してくれる学生がたくさんいることを期待します。
- ・若いのに、本当によく頑張ってくださっていると思います。
- ・大変満足しております。
- ・学校推薦ではなく、直接応募の方のみ短期離職が2年続いている。
- ・実習の頃から日誌等で文章力が気になっていました。現在、実技等も含め指導中です。
- ・サークル活動の延長のような雰囲気であることも良くあり、言葉遣いや態度が不適切なこともある。(中略) 就職する前に、社会人としてのマナーをきちんと入念に伝えておいてもらいたい。
- ・弊社の事業のことをまだ知らない学生が多いと思うので、体験実習や見学などを通じて保育士の働き方を広げていただければと思います。
- ・2人新採用で総合的なスキルが非常に個人差が大きいですが、社会性の育ちや一般常識は学校というより本人の自覚やこれまでの環境ではないか。
- ・採用してまだ数ヶ月なので、評価にあたる事象がなく判断できない項目については「3」とした。
- ・特技や趣味など自分の好きなことやこれまで取り組んできたことを自分の言葉で説明できることは大切。自分の掌外にある業界や世界のことよりも、野花の名前や着物の着方など手に届く身近なことを知って体験するほうがよっぽど大成すると思います。自分の周り・町・国を知らない人材は社会でも、ましてや海外でも役に立たないからです。

卒業生に期待する意見がある反面、個人差のある社会人としてのマナーについて貴重な意見が寄せられている。また、多角的視野やキャリアデザインを描くことに期待する一方で、保育に関する身近な体験や知識を重要視する意見もある。職業人として、基本的マナーはもちろんのこと、現場で必要な知識・技術の修得・研鑽、広い視野を持ちグローバルに活躍する人材を雇用先が求めていることがうかがえる。

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価 I」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得す

ることが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	基礎的な教養の修得については、「よくあてはまる」7.1%と「あてはまる」64.3%となっており、基礎的な教養を身につけているとの回答が7割を超えている。 一方で28.5%が「どちらともいえない」と「ややあてはまらない」と回答している。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

回答数が少なく、また今年度は雇用主アンケートの結果のみであることから、総合的に前年との比較はできないが、雇用主アンケートの結果を比較すると、ほぼ前年と同程度の結果であり、教養力は概ね修得できていると思われる。

雇用主アンケートでは、総合的な教養力についてのみを回答してもらっており、個別の項目についての評価は求めているが、個別意見でも概ね高い評価を受けており、一定の成果があがっているものと考えられる。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由（
3	専門に関する知識・技能を修得しているかについては、「よくあてはまる」7.1%と「あてはまる」71.4%となっており、専門に関する知識・技能を修得しているとの回答が7割を超えている。「どちらともいえない」と回答しているのは21.5%であり、「ややあてはまらない」「あてはまらない」との回答は0%であった。

	また、判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかについては、「よくあてはまる」0%と「あてはまる」71.4%となっており、「どちらともいえない」と回答しているのは21.4%であり、「ややあてはまらない」は7.1%、「あてはまらない」は0%との回答であった。
--	---

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価については、卒業後に栄養士で就職したか一般職で就職したかによって結果が大きく変わってくるので分析は困難であるが、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は修得できていると評価された。基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられる。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
3	問8については、「よくあてはまる」7.1%と「あてはまる」64.1%を合わせた評価の高い卒業生が7割を超える一方で、評価の低い卒業生が存在する。問9では、「あてはまる」と回答が28.6%あるが、71.4%は「どちらでもない」と回答している。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

前回評価より結果が下がった項目はなかったが、思考力、実行力、表現力については社会で活躍できる概ね修得できていると思われる。

しかし、国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては評価が低く、指導していくことが強く求められる。

初等教育科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	「よくあてはまる」との回答が 11.3%であり、「あてはまる」との回答が 49.1%である。概ね 6 割が基礎的な教養を身につけていると評価している。 一方、「どちらでもない」との回答が 28.3%であり、「ややあてはまらない」9.4%、「あてはまらない」1.9%となっている。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

今年度は雇用主アンケートのみでの評価であることから、十分な評価・考察はできないが、3の評価が得られ、教養力は概ね修得できていると思われる。

自由意見においては、多角的な視野やキャリアデザインを描くことに期待する意見もあり、また、社会性の育ちや一般常識は学校というより本人の自覚やこれまでの環境ではないかという意見もある。

卒業生の評価が分かれている状況については、在学中の指導に関し、一層の工夫を進める必要がある。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由（
---------	-----

3	専門に関する知識・技能を修得しているかについては、7.5%が「よくあてはまる」、56.6%が「あてはまる」と回答し、概ね6割が修得していると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が26.4%であり、「ややあてはまらない」9.4%、「あてはまらない」0%となっている。 また、判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかについては、9.4%が「よくあてはまる」、54.7%が「あてはまる」と回答し、概ね6割ができていると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が22.6%であり、「ややあてはまらない」9.4%、「あてはまらない」3.8%となっている。
---	--

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評
専門力の評価については、3の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられる。雇用主アンケートの自由意見では、まだ十分に評価できる事象がないとの意見もあり、また今後の成長に期待するとの意見もある。卒業後の専門職としての成長につながる指導が求められていると考えられる。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
3	社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮しているかについては、11.3%が「よくあてはまる」、62.3%が「あてはまる」と回答し、概ね7割が修得していると評価している。一方、「どちらでもない」との回答が15.1%であり、「ややあてはまらない」7.5%、「あてはまらない」3.8%となっている。 また、国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、7.5%が「よくあてはまる」、28.3%が「あてはまる」と回答している。一方、「どちらでもない」との回答が47.2%であり、「ややあてはまらない」11.3%、「あてはまらない」5.7%となっている。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての 総評
--

思考力、実行力、表現力については社会で活躍できる概ね修得できていると思われる。

一方、情報力については、どちらでもないという回答が約半数となっており、職場としてこれらの能力を発揮できる事象が少ないのではないかと考えられるが、低評価も一定数あり、2年間の限られた教育課程においては専門職としての知識・技術の修得が一義的であるため、国際的な動向等に関心を向ける機会が不足していることが推察される。